

「劇あそび」

これまで親しんできた絵本の中から4歳児の子どもたちが「劇あそび」に選んだお話は、「おたまじゃくしの101ちゃん」でした。

ぼく、今日、ざりがにになりたい。

ぼくも!

ぼくはたかめがいい。

子どもたちは自分の好きな役になって、友だちと一緒にあそびを楽しんでいます。

それじゃあ、今日おたまじゃくしになりたい人は？
1.2.3... 7人ですね。

はーい!

おたまじゃくしの7ちゃんごっこだね。

うん!

次の日。

今日、おたまじゃくしになりたい人は？
2人ね。
それじゃあ、今日は、おたまじゃくしの2ちゃんごっこかな？
...なるほど。

ちかうよ！
おたまじゃくしのふたごちゃんごっこだよ。

そうだよね。

好きな役を交替しながらあそんだ後に、子どもたちは自分が一番やってみたい役を選びます。そして、

ここに花つけようよ。

うん。

本番の発表会に向けて、友だちと協力しながら言葉のやり取りを考えた「あそび」に必要な環境作りに取り組んでいます。

こうした三古童を通して、互いに認め励まし合う場面を大切にしながら、表現する楽しさを感じさせていきたいと思っています。

「おはなしのブーム」

「アリババと40人の盗賊」のお話に出てくる「ひらけー、ごま!」の呪文の言葉が、あそびの中でも使われるようになりました。

ひらけー! ごろうまる!

ひらけー! ごぼう!

ひらけー! ごましか!

ホース!

保育士が外の雑庫の戸を開けようと悪戦苦闘しているとき、教員の子どもたちが応援に駆けつけてくれました。

ガッピッ

ひらけー! ごま!

かんぱれ!

そして、戸が開いたとき

ガタンッ

おー! すごい! やっぱり本物の呪文やった!

わあ!

その後、「ご」から始まった言葉あそびは5歳児のクラスでますます発展しあそびの楽しさを盛り上げています。

ひらけー! じゃがいも!

ひらけー! にんじん!

ぼくも入れて。

子どもたちの豊かな発想やイメージを大切に受け止めながら、友だちとのかかわりを深めていくことが、できるような援助をしていきたいと思っています。